

銀友

本郷学園
同窓会誌
平成19年6月1日
第36号



電



本年度の文化祭は
9月22、23日です。
卒業生のご来場を
お待ちしております。

総会のお知らせ

日時 平成19年6月16日 15:00より
場所 本郷学園会議室
(懇親会は17:00より)

平成19年6月1日発行
本郷学園同窓会
発行責任者 山内 英夫

〒170-0003 東京都豊島区駒込 4-11-1 本郷学園内
同窓会へのお問合せはFAXにてお受けします。
FAX: 03-3917-0007

懇親旅行会(案内)

「四国・讃岐の旅」

同窓会では、平成19年度事業として会員相互の親睦を深める旅行会を計画しております。これまで4回の旅行会を実施してまいりましたが、今回は、秋に東京・羽田空港発で、「四国・讃岐一泊二日の旅」を楽しんでいただきます。来年、同窓会創立80年をむかえる節目ともなりますので、旅行先を本学園創立者であり初代理事長・校長の松平頼壽先生ゆかりの地・高松を選びました。皆さまのふるってのご参加をお待ちしております。なお、個人的に旅行日程を延長することも可能ですし、ご家族との同伴も歓迎いたします。

記

旅行日・10月13日(土)～14日(日)

集合時間・場所・13日午前7時20分 羽

田空港
現地での移動・借り上げバス
宿泊先・ことひら温泉琴参閣
会費・6万円
おもな見学先・

栗林公園 玉藻公園(高松城址) 県歴史博物館 善通寺 金刀比羅宮 金丸座(日本最古の歌舞伎座) 丸亀城 瀬戸大橋タワー 東山魁夷美術館など
問い合わせ先・秋元幹夫(高7回) 同窓会副会長)

電話 03-3949-0041
携帯電話 090-3224-0318
申し込み方法・

ファクス 03-3949-0329
(秋元) Ⅱで、氏名、卒業年、住所、電話番号を明記のうえ、お申し込みください。会費の振り込み用紙と詳細な旅行計画書を送ります。

申し込み締め切り・8月末日

文化祭に同窓会サロン

(同窓・同期の交流の場)

同期会やクラス会のきっかけ作りにご利用下さい。校友が集う場を同窓会が微力ながら用意します。校友同士の友好。また、進学、就職の相談や仕事の悩みなど、人生経験豊富な先輩とのふれあいを通じて語らいませんか

開催予定 9月23日(日)13時より16時まで

場 所 三菱養和会内

「レストランパルテール」

利用方法 文化祭会場内同窓会ブースに立ち寄り同窓会サロン利用券を受け取り会場にお持ち下さい。同窓会ブース場所は、未定です。当日の文化祭案内を参照下さい。

計報

謹んでご冥福をお祈り致します

同窓会にご連絡のあった方のみ掲載しております

中1 入谷 清・内藤正之	中19 大和保雄
本岡雄三郎	中20 井上義三・音丸 淳
中2 高松鶴吉・早川練次郎	山中伸介
中4 野尻 勲	中21 倉島喜一・新澤良孝
中6 小出一夫	中22 加藤 昇
中7 鷲尾竜平	高2 岡村孝彦
中8 長田栄一郎・湯原 藍	高5 大塚叔孝
中9 五味重春・山口鉄太郎	高7 中島憲章
中10 五味 憲	高13 稲垣 篤
中11 鎌田勝雄・長岡ゆうしん	高18 高野哲男
中12 君島忠春・高木敏夫	高19 南保徹夫
高田 馨	高21 曾根秀広
中14 磯川竜平・加藤健造	高28 米山敏昭
八景義信・菱山勇次	高34 鎌田尚元
中15 高間圭一	高37 栗原朋之
中16 川瀬 裕・竹野保之	
半井 晃	
中17 荒野幸次・吉沢良彦	
中18 大澤 清	

敬称略

編集後記

◆同窓会機関誌「銀友」36号を、予定通り発行できました。投稿して下さった方々にお礼申し上げます。

◆本郷学園の受験生は三〇〇〇名を越えました。所謂難関校にみがかがかって来て、前年度より更に実績を上げています。

◆本郷高校の卒業式に出席して「国歌」「校歌」「蛍の光」を歌って懐かしかった。

最近卒業式の定番「蛍の光」「仰げば尊し」など歌わずに現代風の歌にしてるところもあるようです。

◆投稿・情報などお待ちいたします。

(N・I)

本郷学園同窓会役員

会長	山内 英夫(高3回)
副会長	玉川 昭(中19回)
副会長	望月 敏郎(高3回)
副会長	石井 延彦(高6回)
副会長	秋元 幹夫(高7回)
副会長	市倉 洋一(高12回)
副会長	関塚 正治(高20回)
副会長	田中 良一(高24回)
副会長	寺田 正美(高24回)
副会長	平野 隆之(高26回)
監事	篠 喜三郎(高6回)
監事	高田 隆義(高15回)

銀友三十六号 目次 平成十九年六月一日

会長挨拶	山内 英夫	2	平成十八年度定期総会報告	下関 秀之	22
本郷学園理事長挨拶	松平 頼武	3	平成十八年度事業報告・会計報告		24
『校友を訪ねて』陶芸家・榎本洋二氏に聞く		4	平成十九年度事業計画案・会計予算案		25
本郷中学と私	鶴見 俊一	6	学園だより		26
『多羅尾伴内・七つの顔の男』と林家木久蔵師匠	関 貞三	10	会費納入者一覧		28
アニメ今昔の記	辻 忠直	13	学園より 教育振興資金へのご寄付のお願い		32
同期の輪		16	物故者		33
本郷岳友会の年間活動	押田 松児	20	編集後記		33
文化祭報告	市倉 洋一	21			

ご挨拶

同窓会会長

やまのうち
山内英夫



占領下の昭和22年、六・三・三制の導入を柱とする教育システムの変革が行なわれて六十有余年、そのひずみがさまざま

な形で現れてきたのでしよう、このところ教育基本法の改正問題、いじめによる自殺の多発、高校の必修科目の未履修問題、教育委員会の組織問題、教員免許の更新問題等々、教育問題のさまざまな面が各界の論議を賑わせ、安倍内閣では教育改革が目玉政策として取り上げられております。

教育は、その成果が現れるのに長い年月を要するだけに一刻でも早い対応が望まれるところですが、こうした状況の中で公教育に対す

る不信任が子をもつ父母の間に醸成されたのでしよう。中高一貫の私学への志向がこのところ一段と強まっているようにして、私立中学への進学希望者は増加の一途をたどり、少子化の中で我が本郷中学も19年度の受験生は過去最高の二千人を超えたことであります。

入学者の質が向上すればいずれ有名大学への進学率の向上につながるわけで我々卒業生にとつても心強く喜ばしいことであり本郷学園の質的向上に勤めてこられた学園関係者、教職員に敬意をささげたいと思ひます。

さて、同窓会の活動につきましては、その活性化の一方策として数年前から学園祭に併せ開設している同窓会サロンも逐年参加者が増えていることは大変喜ばしいことであり本年も多教の同窓生が参加されますことを期待いたしております。

同窓会は来年八十回目の卒業生を迎い入れることとなりますが、この間三万人近くの卒業生のうち同窓会が把握している卒業生はその一部にしか過ぎません。とりわけ退職期を迎える団塊の世代の組織率が極めて低いことが同窓会活動の永続性の面からも大きな問題となっております。

同窓会としてもこの世代の組織率を高めることが重要な課題としてとらえ、本年度この世代の同期会クラス会の開催にできるだけ協力したいと考えております。

各世代の方が同窓会活動に関心を寄せていただくたいのですが、とりわけこの世代の関係者のご協力をお願いして二期目にあつた私のご挨拶といたします。

ご挨拶

本郷学園理事長 松平頼武



同窓会の皆様には、日頃学校のことを思い、ご指導、ご助力を頂きましてまことに有り難うございます。

今後とも、母校の発展にお力添えを頂きますようお願い申し上げます。

平成18年度は、教育基本法の改正をはじめ、教育に関連する問題も数多く発生した年であり、国全体が教育問題を大きく取り上げました。

年末には、本校でも文科省の指導による未履修科目への対応に追われました。

しかし、2月の中学、高校の入試におきましては、合計で三千名を超える出願がありました。

これは本郷が受験生からいかに高い評価を受けているかの現われであります。

また、今年度の大学入試の実績も昨年を上回る結果で、毎年、一步一歩着実に向上しております。

これらは、高橋校長先生を中心とする教職員の日頃からの、教育水準の向上、きめ細かい生徒指導への取り組みの成果であります。

本郷では、「立派な日本人になれ」「スマートであれ、紳士であれ」をスローガンに、確かな学力をつけ、物事の本質を見通す眼を育み、社会力、人間力を付けて、社会に役立つ人材の育成を今後も続けて参ります。

今年は二百七十八名の卒業生を送り出し、同窓会に新入会致しました。

よろしくお願い致します。

同窓会の今後ますますのご発展と、会員の皆様のご健勝とご活躍を祈念申し上げます。



校友を訪ねて

陶芸家・榎本洋二氏(高26回)に聞く

芸術にみせられて

—昭和49年に本郷高校普通科を卒業されたそうですが、高校時代に



—昭和49年に本郷高校普通科を卒業されたそうですが、高校時代に

少し外れることもありましたが。担任の先生からは、特待生でしたので細かく注意を受けたことを覚えています。部活動は物心ついた頃から絵に興味があり絵をかくことも好きだったので美術部に入部しました。当時顧問の小島先生に独特な絵の指導を受け、この部活動が美術に対する興味をさらに大きく深くさせていきました。

3年間、特待生として、先生や同級生などから常に見られて、いろいろな意味でプレッシャーと感ずることもありましたが。

—難関大学を受験し、工芸を学ばれたそうですが、大学時代はいかがでしたか。

—高校が終わりに近づき進学を考えていた頃、音楽三昧の生活を送っていたので本当は

「本郷高校に入学した理由は、この学校が歴史ある高校で、その頃住んでいた家から近く便利で通いやすく、両親の勧めもあり選択しました。幸い、入試の時の成績も良く、特待生として受け入れてもらえました。

男子校という独特の雰囲気ではありましたが、その中で高校生活を楽しく過ごしました。

高校時代は仲間とその頃流行でもあった音楽活動に夢中でした。髪を伸ばしたりして校風から

音楽の世界に進みたいと考えていましたが、当時は音楽で進学という道は無理でした。得意の美術に関しては都内には有名校があり、受験は多摩美・武蔵美・藝大の三つにしほりました。たまたま東京藝術大学に通う先輩方などから色々と興味深い話を聞かせていただき、ますます藝大に対する思いが強くなり、浪人を経て、東京藝大に進学しました。

合格するまでには長い道のりがありました。美大を受験する中で現役合格はとても困難でした。美術系に進学するために専門の予備校にも通いました。浪人1年目はそれほどの力を蓄えていなかったのに、倍率30倍のデッサンの1次試験を通過できましたが、2次試験がパスできずに悔しい思いをしました。これがきっかけで、もっと本気で取り組もうという新たな気持ちで

強まり、藝大合格だけに力を注ぎこみました。

2年目の挑戦は、試験会場に問題があり、デザイン試験に不利な条件が重なってしまい、試験途中で諦めました。そろそろ結論を出さなければならぬと考えていた3年目の挑戦では、藝大の試験雰囲気慣れたこともあり、わりとリラックスした気持ちで試験を受けることができ、その結果、合格することができました。

美術の中でも色々選択肢がありました。その頃はデザインがもてはやされていた時代で、最初はデザイン科を目指していましたが、よい作品を作ることに興味が出てきて、工芸の道に変更しました。

東京藝大で工芸という分野に足を踏み入れましたが、この世界は金属や漆、染色など非常に専門的な分野が多数あり、その中でも陶芸という学科に強い興味を持ち、焼き物を専攻し、最終的には大学院まで行き勉強させていただきました。その時、後輩には現代美術の世界で活躍している村上隆君もいました。

大学時代は先生方とお酒を飲む機会が非常

に多く、席を合わせるたびに教官との距離も縮まり、創作に必要な技法や取組む姿勢等を酒席の中で多くを学び取ることができました。おかしな話ですけれども、創作に対する姿勢や考えを高めていくには、お酒の力も必要なかと考えることができました。」

——日本美術界の現状について……

「芸術活動を行いながら生計を立てていくのは、なかなか難しいのが現状です。

学生の頃は、海外に見聞を広めるために出かけて行く機会が何度かありました。海外では非常に興味、懐が広く、理解力を感じます。かつては日本もそうでした。しかし今では具体的に形やお金にならないものに対する理解は敬遠されます。逆に投資目的による美術に対する評価、知名度の高いものに対するの関心は非常に高いようです。

それが悪いというわけではありませんが、それよりも芸術の未来に夢を託し、若手芸術

家に投資をして賭けてみるという理解力を社会全体で応援していただければと思います。」

——最近の作品についてお聞きします。

「大学を出て数年後、知人の紹介により朝霞市在住で「丸沼芸術の森」主催者の方と知り合いました。この方は美術に対する造詣が非常に深く、作品収集や若手作家の支援に積極的で、美術全般に渡っての良き理解者です。

その様なことがきっかけになり「丸沼芸術の森」内にアトリエを構え、陶芸の製作活動を行っており、また年に何度かの個展を開いて多くの方々に理解をいただいております。

多くの方々に喜んでいただく為にも、いい物を作り続けなくてはならないという使命感を感じています。作品を製作するには常に感動し、その感動に突き動かされて一つの形にしてゆきます。作品の大切さとは、鑑賞し、また手元に置いて共感してもらい、その喜びが心の癒しとして存在することだと思います。」

本郷中学と私

鶴見 俊一（中16回）



（1）傘寿を過ぎて

私は、昭和13年4月、

本郷中学校に入学したのだが、父

係で、家族が福島県郡山市へ転居することになったため、翌昭和14年の夏休みに、福島県立・安積中学校に転校した。

従って本郷中学校に在籍した期間は、1年と1学期間と非常に短かったが、傘寿を過ぎた現在、自分の人生を振り返ってみて、このように長生きできて有意義な人生を送ることができたのは、本郷中学にお世話になった1

年数ヶ月の影響が極めて大きかったことを悟り、感謝の気持ちを表す意味で、この一文を記した次第である。

（2）本郷学園同窓会との関わり合い

戦後は互いに文通も途絶えていたところ、昭和43年のある日、本中16回同期だった原栄蔵さんが、私の職場の大先輩Mさんからの紹介で私を訪ねてくれた。もちろん、二人は初対面のつもりで、原さんが名刺を出す。私も名刺を返す。

『原 栄蔵』。おやつと思つて、私は彼の顔を見るなり思い出した。本中の彼に相違ないと思つた。まだまだ昔の面影が残つていた。そこで早速「あなたは本郷中学の出身ではありませんか」と尋ねた。すると彼も私の名刺

と私の顔を見比べて、「あ、お習字の鶴見さん！」と言つた。原さんと私とは、本中で授業を受けた習字の杉浦先生の指導で、習字の良きライバルだったのを、彼は思い出してくれたのである。

私の出身小学校は、滝野川尋常高等小学校だったが、同じクラスからは「渡辺 修」君と私の二人が本中に通学していた。戦後、何か小学校のクラス会が開催されたが、渡辺君の消息は全くわからなかつたので、原さんを通して、同期の駒宮さんや、同窓会名簿なども調べてもらったのだが、彼の消息は全くつかめなかつた。

しかし、そのような経緯から卒業生でもない私が、同窓会の末席に名を連ねさせていたのだのである。

(3) 本郷中学に入学するまで

私が本郷中学に入学した当時は、義務教育は小学6年生までで、中学からは競争試験だったので、小学6年生になると、担任の先生が放課後進学希望の児童のために行っていた補習授業や、夜は各自が最寄りの先生を頼んでの勉強会、そして日曜日は、力試しに都心で開催されていた模擬試験を受けるなどで忙しく、あまり遊ぶ暇はなかった。

私は、小学校低学年の折、肺門リンパ腺炎（肺結核の一步手前だと教えられた）を患い、2ヶ月ほど寝たり起きたりの生活だったので、それ以降はすっかり運動機能が低下して、毎年の運動会では徒競走は何時もしり争いだった。それ故、毎年運動会がくるのが憂鬱だったが、それでも何とか健康を維持して、府立校を受験できたのである。

ところが、その前年の昭和12年7月、日支事変が発生すると、政府は戦争が長期に渡ると判断したのである。翌、昭和13年2月には国家総動員法が成立し、中学生から軍事教

育が始まるなど、軍事色が強くなってきた。それらの影響を受けて、昭和13年の府立中学の入学試験は、筆記試験とともに体力が重視されたようであった。

私の受験した府立の工業校では、一次の筆記試験合格者に対して、二次試験には、口述試験と体力検査があつて、この体力検査で私は不合格となつてしまつた。「昨年までなら合格だったが、今年からは体力重視の方針に変わったので、次の定時制を受験しても不合格になる。ここは他の学校を受験したほうがよい」とのことであつた。

そこで父は担任の先生と相談した結果、幸いにも当時から体力重視の教育をモットーとしていた本郷中学が、まだ願書を受け付けているということ、急ぎよ本郷中学の入試を受けることになつた。

本郷中学の入試問題は、国語と算術の2科目で、すべて6年の教科書から出題されていたので容易であつたし、体力検査などはなく、ぬしろ体力のない生徒を積極的に合格させて

いるようにも思われた。従つて、入学してから私のように体力不足の生徒も相当数見受けられ、私を安堵させた。

(4) 本郷中学での私の成績

中学に入ると、久しぶりに受験勉強から開放された気の緩みか、土曜、日曜は、ラジオの前に齧り付いて春の六大学野球放送を聴くなどして、のんびり過ごす時間が多く、一学期の成績はあまり良くなり、父を失望させた。小学校からの蓄積のある国語、代数などは、そこそこだったが、英語などの新しい学課は不得手になつて成績を下げた。

夏休みの宿題帳（当時は各学課ごとに一冊の薄い宿題帳が配られた）が出ると、数学は、一週間もかからずにやつてしまい、英語は、得意なK君の宿題帳と交換して写して出すという始末であつた。

しかし、子供心に父親を失望させたことを反省し、二学期からは点取り虫に変身した。自分がその気になれば、成績は徐々に上昇し



伝統だった飛鳥山マラソン(昭和5年6月)

た。しかし、どうしても成績の上がらない苦
手な学課、それが体育であった。

(5) 本郷中学の体育

本中の体育の点数の仕組みは、学期前に今
学期中に履修すべき科目、例えば、倒立何分、
跳び箱何段、鉄棒は蹴上がり、地上転回(2
年1学期は、鉄棒は足掛け上がり、空中転回
であったと記憶している)など、4〜5科目
を予め決めておき、全部できると10点満点と
いう具合だから、極めて明瞭な採点。しかも
生徒にとって非常に幸いだったことは、これ
らの体操科目ができたかどうかの判定は、試
験をするわけではなく、自分ができたと思っ
たときに、教員室に報告に行くと、放課後も
体育の先生が交代で残っておられ、何時でも
すぐ運動場に來られて、できたことを確認す
ると、閻魔帳に合格の旨、記録されるとい
う具合であったから、各自、自分の好きな時間
に、好きな科目の練習ができたし、また、相
当数の先輩の方々なども残っておられ、時に

は指導していただいたので、あまり苦勞せず
に覚えることができた。今考えると、体操の
ため居残りをしたこの約一年間のご指導のお
かげで、体操にもやや自信が付き、体力が回
復していく大きな転機となったようで、本郷
中学には深く感謝している次第である。

こうして体操にも挑戦したが、体育の点数
はこれだけではなかった。学校を休むと減点
されたようで、私のように虚弱体質で、風邪
を引いたり胃腸を壊したりして、休むとそれ
なりに減点されたようだった。

しかし、私は小学校から本郷中学まで、通
知表の『身体状況』の欄の概評に、『要養
護』などと何か書き加えられることが多かつ
たのだが、転校した安積中学では普通の生徒
と同じに見なされるほどに回復していたので
ある。

安積中学へ転校して気がついたことは、体
操の時間が少ないことであった。それに1学
年250人と、本郷中学と規模もあまり変わ
らないのに、安積中学の体操の先生は一人で

あった。質実剛健の気風を養う、という目的で、校舎は郡山市内から4キロメートルも離れた郊外に建てられ、生徒は全員徒歩通学だったから、往復の通学で体力を養成したのかもしれない。

本郷中学の体操の先生は、当時3〜4人は在籍されていたと記憶している。体操の時間は週3時間、そのうちの1時間は、永井教頭先生が受け持たれ、入学当初は新入生の運動不足を配慮されたためであろう。専ら「一、二、一、二」と、集団でのかけ足が多かったことや、また5月頃には、全校生徒による飛鳥山まで往復約4キロメートルのマラソン大会が開催されたことなど、生徒の体育養成に、なみなみならぬご指導を賜ったことを懐かしく思い出している。

(6) おわりに

平成18年10月、富山県の高校を発端に全国の高校で、日本史、世界史などの必修科目の未履修が相次いで発覚し、未履修の公立高

校の生徒は、最終的には663校、10万人余と発表された。これによって単位数が不足し卒業できなくなる生徒がでることから、該当する高校では急きよ補習を始めたところもあり、大学受験を間近に控えた高校3年生は、補習に時間を取られると受験勉強ができなくなる不安になり、生徒の保護者からも『寛大な措置を』と、文部科学省に陳情が出されたという。伊吹文部科学大臣は、当初「ルールを守った学校の生徒との不公平感が生じないようにしたい」「70時間は補習に充てたい」と語っていたが、議員の間からも生徒に同情する意見が強く出され、実質50時間の補習で救済することに決定したようだ。

私は実社会に出てから、学生時代に暗記物と称していた地理、歴史などの知識が、国際社会ではいかに大切か、ということを経験して、もっと勉強しておけばよかったと反省させられることが多く、また、ひ弱な男性が人並みに丈夫になり、実社会で活動してきた今日までの経緯から、人生には『塞翁が馬』の

要素も多く、要はそれをどのように自分の人生に生かすことができるかが課題だと思っているので、伊吹文科相の意見のように、必修科目をきちっと履修させることが大切だと思っており、むしろ周囲の人たちが、若い生徒たちに過保護になって甘やかしているのではないかと心配している。

保護者の方々は目先の利害ばかり考えないで、長い目で子供たちを見守る余裕がほしいものである。

かりに受験に失敗したからといって、まだ人生の入口ではないか。自分に与えられた試練だと思つて、次のステップに向けて努力してほしい。これからまだチャンスは何度も来る。諦めずに努力することが肝要である。

以上、後輩の若い人々に私の気持ちの一端を伝え、本郷中学への感謝の言葉に代えたい。※鶴見氏は水戸高等学校から東京大学に進み、卒業と同時に横浜市に就職、同市技監を経て昭和59年6月に退職しました。

『多羅尾伴内・七つの顔の男』と林家木久蔵師匠

関 貞三（高6回）



志賀直哉

の小説に『小僧の神様』がある。

〈すしを食べたいと願っている小僧さんが、

見知らぬ人から、すしをご馳走になる。理由が分からぬまま、その人を神様だった、と信じてしまう〉話だ。

思いを叶えてくれる人を神様と言うなら、私の神様は——林家木久蔵師匠である。

そのゆえんと、私の本校在学中の思い出などを綴ってみる。

平成17年3月20日。『多羅尾伴内・七つの顔の男』が、関貞三著・林家木久蔵編でワイ

ズ出版から刊行された（写真）。

片岡千恵蔵さんが映画で演じた、あの多羅尾伴内について書いたものだ。

映画は、終戦直後の昭和21年から昭和35年にかけて日本が公開され、圧倒的な人気を博した。特に、千恵蔵さんがラストで「ある時は片目の運転手、またある時はインドの魔術師……しかして、その実体は、正義と真実の使徒・藤村大造だ!!」と名乗りを上げ、正体を現す場面は、いまも映画ファンの語り草になっている。ばかばかしい、と一笑に付す向きも多いが、



現在の六・七十代の男性は、少年時代に一度はこの映画の洗礼を受け、喝采を

送った記憶があるのではないだろうか。——かく言う私も、その一人であり、本校の高6回である。

私は、本中・本高の六年を通じ、四年間を硬式野球部に所属した。

当時、高4回の先輩には渡辺武男さんら。高5回には島崎雄司さんらがいた。

高6回の私たちは主に五人だった。学習院大学に進み、東都一部リーグで優勝投手となった根立光夫。我々のキャプテンで一番の頑張り屋だった。彼はその後、東京ガスに入社し、野球部の監督・部長も務めた。堅守の三塁手だった佐々木進は現在、大根根で晴読雨読の生活を送っている。未だに童心を失わぬ、うれしい男だ。左腕投手の逸材だった関根康孝は、残念なことに働きざかりで亡くなった。マントバーニーの音楽が好きな、ロマンチックな男だった。

我々のめんどうを見てくれたマネージャーの鈴木健二、温厚で、一度も怒った顔を見せたことがなかった。彼もまた数年前に逝き、五人組は三人になってしまった……。

高7回の後輩には沢部臣省君ら。その下の高8回には藤巻健三君らがいた。彼は卒業後電電関東（現N・T・T東日本）に入社し、後年、チームを率いて都市対抗野球戦で優勝監督になっている。

思えば、私の本中・本高時代は野球漬けであり、いつも同期の五人で行動していた。思いつきでも野球に関してのものが多く、

きつかった練習。バケツの水をこっそり飲んだこと。授業中に糸の切れたボールを縫っていて、先生に叱られたこと。替えがなく、汗にまみれたユニホームを干しては着、干しては着て臭かったこと。柔道場での夏の合宿。練習中、打球が股間を直撃し、陰のうが腫れ上がった先輩のこと。晴れがましかった他校への遠征試合。森徹のいた、早稲田高等学院と一対一で引き分けた試合。この時の関根康孝の好投はいまも目

に浮かぶ。都大会でベスト16に残ったのも、この高5・高6・高7回の時代だったように思う。思い出すときりがないが、そんな訳で、いきおい他の同期とは深い交際はなかった。

しかし、縁とは不思議なもので、この疎遠だった人たちの中から、後に、縁のつながった友が二人いる。一人は民芸の役者だった石森武雄。滝沢修主演の『炎の人』で牧師役を好演した。後年の大滝秀治版でもこの役を演じた。もう一人は高橋民次郎。現在、悠々自適で、コーラスグループ〈アンサンブル・プラネタ〉を経て、ソロ活動を開始した娘さんの追っかけをやっている。

私が〈多羅尾伴内〉のことを書くようになってからは、長く商いを続ける中で漠然と自分探しをしていたためかもしれない。

きつかけは、平成元年に『多羅尾伴内・七つの顔の男だぜ』（昭和35年・東映）が、まさかの、テレビ放映されたことによる。

小説もそうだが、映画も、少年時代に観た

時と年齢を経て観た時では受け止め方が変わる。この多羅尾伴内シリーズの作品を何本か集め、観るうちに、探偵であるこの主人公は、かつて怪盗であったこと。ラストの「ある時は……」のセリフも、正体を現す場面にも変遷があったこと。さらに触覚を働かせていくと、小池一夫・石の森章太郎さんの劇画に、二代目・多羅尾伴内ものがあつたこと。これがきつかけで、小林旭さんの多羅尾伴内映画が作られたことなどが分かってきた。焼けぼっくりに火がついてしまった。

それから、商いの傍ら、この映画のことと主人公について、調べ、書くようになり、小冊子にまとめるようになった。

これを、木久蔵師匠のご住所を知らぬまま、日本テレビの〈笑点〉を通じ、師匠にお送りした。師匠が時たま、千恵蔵さんの声色で「ある時は……」などとおやりになるからだ。お手元に届くかどうかも分からなかった。

——思いもかけず、師匠から「もつと書いてみたら——」というご返事をいただいた。



1954年4月・早大安部球場で。右より私、関根康孝、鈴木健二、佐々木進、根立光夫君

どれほど励みになったことか。おそらく、このお便りがなかったら、この〈本〉は誕生しなかったに違いない。

平成14年、私は、店舗の老朽化と私自身の年齢を考え、42年間営業した店を閉じた。

リタイアした私は、書きためた原稿の手直しと整理をし、木久蔵師匠にご意見を仰いだ。師匠はお忙しい中、二百五十枚ほどの原稿を読んで下さり、その上、いろいろとご指摘ま でいただいた。——この頃には私も、自費出版でも本にしたいという腹積もりになっていた。

ところが、平成15年8月、木久蔵師匠が映画書籍専門のワイズ出版に連れて行って下さり、出版のOKを取って下さったのである。

——それからは、編集者との原稿校正・手直しのやりとりがあり、その後、スチール写真100葉の選定とフィルモグラフィのチェックが行なわれた。一年半ほどかかったろうか。さらに、木久蔵師匠と漫画家パロン吉元先生

がイラストを描いて下さることになり、出版は平成17年3月20日と決まった。

出版記念会には、午後、青山ブックセンターで「林家木久蔵・トークショウ+サイン会」が夕刻からは、日本橋たいめいけんで記念パーティーが、いずれも師匠のお力添えで催されることになった。

出版記念会の前日のことである。

電話を受けた妻が最敬礼をし、どなたかにお礼を申し上げている。——代わると、木久蔵師匠だった。

「明日は、私に任せ、今夜はぐっすりやすんで下さい。大丈夫ですから……」

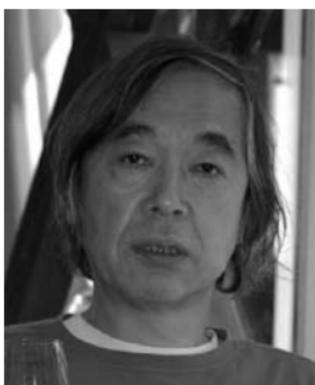
緊張している私への、お心遣いだった。受話器を置き、妻に告げると、

「——神様だわ」と、絶句した。

○ ○ ○
——私の神様は、今日も〈笑点〉で大きな口を開け、呵呵大笑して居られるのである。

アニメ今昔の記

辻 忠直 (高12回)



■45年振りの母校
章で申しわけありませんが、私なりの半生を記してみました。

私の卒業

年度は昭和35年です。同期卒業の鈴木教司君に誘われて

45年振りに同窓会に参加しました。

当時の通学コースを懐かしく思い駒込駅から歩いてみました。家並の変貌に驚き、校門前に立つと、いちよう並木は変りがなかったが、その奥に垣間見えた校舎は昔の面影はありません。45年の追憶にオーバーストップできず、タイムスリップしたような錯覚に陥り、半世紀の時間が経ったことを痛感しました。今回、同期の同窓会幹事役の市倉氏に「銀友」に寄稿するよう依頼を受け、つたない文

■アニメーター時代

私は、今は昔昭和37年に東映動画(現・東映アニメーション)に入社しました。

入社当時の東映動画は年1本の長編劇場作品を製作し、その合間に短編も製作していましたが、世間ではアニメーション映画と言わず漫画映画と言われていました。

新人スタッフは3ヶ月間の研修があり、専任講師から動画の基本を教わります。

研修を終えて長編劇場作品「わんぱく王子の大蛇退治」の配属先はK先輩の原画班でしたが、ここで大変迷惑をかけてしまいました。

当時の東映動画での作画の流れは第1原画(ラフ)↓第2原画↓第1動画(クリンアップ)↓第2動画(クリンアップ)した動画の中割り)でした。

第2動画の私の中割りが何回描き直しても原画のKさんからはOKがなかなかでませんでした。ひとつの原画を一ヶ月以上も抱え込み、スケジュールに障害が出てきていたので、Kさんからはお咎めもなくやさしい原画マンだったことに感謝した次第。

■背景マンへ

私にとって2作目となる劇場作品「わんぱく忠臣蔵」では飛躍どころか惨憺たる苦痛の動画マン時期でした。我々同期後に入ってきたメンバーに、新人ながらもめきめきと頭角を現わして活躍していたのが林静一さん、宮崎駿さんでした。

私はアニメーターには向かないと思って転職を考えていた頃、1964年、虫プロの国内初のTVアニメ「鉄腕アトム」に誘発されて東映動画も「狼少年ケン」の製作を開始したので契機に背景を描く美術課に転属、背景マンとなりました。

もちろんこの頃のTVは白黒時代。キャラクターの色指定も背景も10段階グラデーションのモノクロ絵の具です。

その後の「風のフジ丸」の中盤からカラーになったのですが、TV作品は電気紙芝居と社内劇場スタッフから擲擧され転属組は少なく、会社側は応援部隊として京都・東京の両撮影所から多種多様な人材を送り込んだわけです。

劇場の作品のカメラワークは淡々としたものが主流でしたが、実写組が参画したTV作品は縦横無尽のカメラワークで2畳敷きの背景を描かされました。

■モノクロからカラー化へ

67年からTV作品の「魔法使いサリー」の18話からカラー化が始まりましたが、当時の色彩設計は美術デザイナーの範疇でした。これは結構大変な作業でした。美術デザイナーのデビュー作は永井豪さん原作の「マジンガーZ」でした。主役のロボットの色を決定するのに難儀しました。最終的にはスポン

サーである玩具メーカーのカラーイメージを基調にまとめあげるわけです。ロボットの質感に合わせるため、今までに無い色を発注もしました。いわゆる超合金色です。本来なら影色やハイライトなどで何色かで塗り分けすれば表現できるのですが、当時のTV作品は低予算のあたりでキャラクターには何色もの色数を使うことはご法度だったのです。

そして、もう一つ苦労したのはカラーTVが完全普及していたわけではないので、白黒TVで見ても明度がはっきりわかるように色指定をしなければいけないことでした。

■巨大ロボットの幕開け

72年夏。東映映画はロックアウトに突入。私は会社側で「マジンガーZ」の準備をしていました。都内の貸しビルに籠城にちかい状態での打ち合わせや資料集めで美術設定や美術ボード作りが大変でした。

原作者の永井豪さんはスタッフを信頼してくれていたようで、原作に無い美術設定はほとんど私に任せてくれたので緊張したことを

覚えています。特に「光子力研究所」は徹夜状態の2日ほどで描き上げました。マジンガーZがブルから出撃するイメージは、今は高層ビル群と化した新宿副都心がまだ淀橋浄水場だったころの航空写真を新聞で見てアイデアを思いつきました。

現在のTVアニメはデジタル化で各パートの分業化が進んでいますが、当時のアナログアニメでは美術デザイナーの仕事は盛りだくさんでした。ちなみに列挙しますと、美術設定、美術ボード、色彩設計、演出との美術打ち合わせ、背景原図、背景チェックと修正作業etc。その他にもオープニング・エンディング美術やタイトル文字のデザイン、そして、当時ではメカデザインという部門はありませんでした。そのメカデザインもやりました。その後はゲッターロボ、グレンダイザー、ガ・キーンなどロボットアニメばかりで少し嫌気がさしてきて、メルヘンものやドラマ性のあるSFストーリーアニメなんかやりたいなーと思っていた矢先でした。

■宇宙戦艦ヤマトとの出会い

話題になっていたTVシリーズのヤマトは見えていませんでした。ある時、高校生の甥っ子から東映で配給している劇場用ヤマトのチケットが手に入らないので何とかしてくれないかと頼まれ、電話でヤマトのフィーバーを知りました。その後、第2弾として「さらば宇宙戦艦ヤマト」の製作を東映動画がやることになって、製作スタッフが選ばれていました。私は「グランプリの鷹」美術を担当していたの

TVアニメ・DRスランブ美術ボード



で声はかかりませんでした。が、しばらくして会社から美術設定をやってほしいので西崎プロデューサーに至急会ってくれと言われ困惑しました。絶頂期のプロデューサーでしたから会った時は背後からオーラが出ていました。東映動画ではなかったシナリオ会議からの参加で、緊張のなか、顔見知りの脚本の藤川桂介さんがいたのでとても安堵した次第。

シナリオ構成の会議が夕方から始まり、終わるのが明け方の4時頃です。とても尋常な時間帯ではないので睡魔と空腹との戦いでもありました。東映動画では経験したことのないこれらの会議に参加して感じたことは、西崎プロデューサーのストーリー、映像、音楽等のこだわりをスタッフが理解するまで一步も引かない、鬼気迫る執念でした。その後の劇場ヤマトはすべて参加し、とても勉強になった作品でした。

■アナログからデジタルへ

TVアニメの草創期でSFもののコンピュータはパンチテープがパネルからスルスルとでてくるものでした。今ほどITやP

Cが当たり前の時代ではなかったし、電子計算機と言われて日常生活とは無縁だから科学情報も希薄で、コンピュータの美術設定はかなりイージーなものでした。

そんなロウテクなイメージでよかった時代でしたが、現代は変化の速さが違います。

先鋭的なプロダクションは早々とCGを導入していたようですが、東映動画も5、6年前からデジタル化にふみきました。

デジタル化の時代と言っても美術パートは、筆や絵の具の要らないデジタル彩色やカメラ不要の撮影部と違い、まだ手描き背景もあります。しかし、将来はすべてPCで描くことになるでしょう。

その私は退職後、アニメ用の絵の具は捨ててPCで描いています。2Bの鉛筆を絵筆に持ち替え、そして今タブレットのペンで描いています。

時代の変化を大いに感じています。

アニメ美術が、シナリオ、音楽、演出、キャラクターと同様に市民権がもたらえる日が訪れることを信じて生涯現役でいたいと思います。

輪の同期

昭和十一年卒業(中9回生)のつどいの会遂に幕を閉じた。

(有賀活郎)
佐々木岸太郎

本郷中学校が昭和七年から昭和十一年の長い間私達の友情を育ててくれました。本来ならば、もっと盛り上げて行かねばならないのですが、私達の年齢や、健康状態から考へても無理な事です。

過去本郷中学校で五年間、学生生活を過ごし、卒業後は進学した者や、社会人となり活躍し、また家事の手伝い家業に努めた者もありそれぞれに出発した。それとなく、ど

うしているかと思ひながら、会う機会がなくなるような手続を取ったら良いのか、悩んでおりましたが、昭和六十三年三月現在、在中消息がわかったので、私達がお世話をしました。その時は五十八名の氏名がわかりました。そこで九回生の集いの会として、毎年一回開催する事になり、集合場所には苦勞しましたが、知人の紹介等で集合する事が出来ました。久し振りに会うと、とても喜びあつて卒業後の生活とか、家庭の事情を話し会つて楽しく過ごしました。世話している中に、残念ながら左記の友人を失いました。

有村純臣・石津武夫・伊佐山健次・添原誠之助・小倉寿礼・大城戸繁・小澤秀義・俣田一男・川口英三・加藤直晴・

藤井健・黒岩隆繁・五味正芳・小宮徳次・佐生慶也・久水康晴・島崎良雄・須田康臣・関口正夫・鷹巢一晃・千葉保典・鳥海一郎・徳田喜一郎・中村正夫・中田正彦・長野正比・根岸弘衛・福地健吉・深沢清純・藤川輔一・三橋堅二・松永猛男・吉成久志・渡辺晶一郎・伊藤巖・佐藤喜正・浅田美輝、三十七名が逝去された。

本年で七〇年になりましたが、これから会合を持つ事は不可能となりました。この機会に思いきって解散する事に致しました。残念ですが、やむなく幕を閉じることにしました。

しかし、会は無くなつても思い出は残ります。

これからは、元気で過ごす様にして行きたいと思ひます。お互いのおつき合は、今まで通り続けます。

終わりに先輩として卒業生の集まりを持って本中及び本郷学園の繁栄を祈りたいと願ひます。

平成十八年十二月

高8回同期会

(新澤米次)

高八卒(昭和31年度)同期会は2006年11月25日(土)午後3時より本郷学園会議室で行なわれた。



健康が宝ですをモットーに五回目を迎えた。古稀の前年と云うこともあり、仲間と交遊を深めたい一心で、会員56名のうち23名が参加した。

健康で元気な姿です。次回には会員の参加をお待ちしています。

.....

高10回同期会

(井上栄三郎)

「トンネルを抜けると雪だった」十一月中旬と云うのに初雪のお出迎え、山々は白く麓は紅葉の見頃で何ともいえぬ美しさでした。気の置けない仲間五人で年一回旅を続けて八年です。今回は越後湯沢でゆっくりと温泉につき、会席料理と越後名酒ですっかり良い気分になり、恒例のカラオケ会場へと繰り出し、平日のせいとお客は我々だけで盛上がらず、早々に部屋に戻って飲み直し、年金・健康・孫の話しばかりでこれまた盛上がらず。

翌日は雲一つない快晴、ロープウェイで展望台に行き十五センチも雲がありビックリでしたが、雲と青い空そして紅葉と心む景色



写真左から福住輝男、紀藤弘之、井上栄三郎、岡本信也、青木弘三

を堪能させていただきました。

町中いくつもの足湯があり、ピチギヤルとヒザ小僧だけの混浴であったが、話もはずみゆかいな旅でした。

今回は夫婦同伴の旅行を計画したいです。

.....

高12回同期会

(高木佑三)

思いで深い青春の本郷高校を卒業してから早47年になるうとしています。今まで小学校、中学校、大学の同窓会は年一回開催され出席してきたのですが、残念ながら高校については卒業後40数年間同窓会または友人から何ら連絡がなく同期生に会うことを諦めていました。我が学校生活の想い出でこの3年間だけが空白になっていました。

しかし、04年11月突然(予期していなかった)久保国男君から同期会忘年会の連絡を受け同窓会、同期会が存在していたのかと驚く



のと同時非常に嬉しく思いました。同忘年会には他用があり残念ながら出席出来ませんでした。その後05年1月箱根「一の湯」、06年

2月「三浦マホロバ・マインズ」、そして本年1月うなぎ専門料理屋「登川」で行なわれた同期会(写真「左から飯田、竹村、熊木、久保君、私と小田川、市倉君」には参加し40数年ぶりに旧交を温めることができました。

これら同期会で会った同期生市倉君、飯田君、小田川君、熊木君、久保君、竹村君、滝瀬君、星野君等とは一目会った時はお互いに歳をとっていたため昔の面影を思い出すのに若干時間がかかりましたが、時間が経つにつれいくら年月が経つてもその人の本来の人間性は変わらず高校時代の諸氏の姿が蘇ってきました。

小職今年の1月で65歳となりいよいよ年金の支給を受ける身となりましたが、大学卒業後42年間勤務してきた現在の会社にまだ籍を置いて月1回中国に出張しています。このため同期会と時期が重なった時は出席出来ませんが、出張日時を調整して今後の同期会に出来るだけ出席したいと思っています。

高13回同期会

(齊藤 毅)

昭和36年3月に卒業して以来初めての同期会である。17名の参加であった。今回の同期会開催にあたり、同窓会事務局から高校13期卒業者は32名であり、連絡できるのは45名であることが確認できた。参集した同窓は46、7年ぶりでお互いに名前を確認し合い、昔話に花が咲いた。今後はクラス会等も含め来年の再会を期して名残惜しみつつ散会した。ただ、残念なのは他界された方がおられたことである。ご冥福をお祈りしたい。

参加者

阿出川信夫	岡 通夫	中村 久
方波 見茂	岩城 正幸	根岸 進
明石 安邦	渡辺 良和	永井 忠雄
鴨下 亘訓	櫻井 敏明	清川 洋吉
杉本 繁	野間口正機	越路 往輝
岡田 勲	齊藤 毅	



高18回同期会

(小倉義雄)

桜が満開な平成19年3月31日(土)午後6時より、巢鴨の泰平飯店にて4年ぶりに恩師の

先生2名を含め、30名で還暦祝いを兼ねたクラス会を開きました。まず1、2年前に残念ながら逝去された同僚に対し皆で黙祷を捧げ会を始めました。それぞれ近況報告をしてもらい、最後にみんなで校歌を大きな声で合唱し、高校時代の思い出なども含め、大変に楽しい時間を過ごすことが出来ました。その後2次会に行き午後11時過ぎまで楽しく親睦を図ることが出来ました。次回は2年後に集まることを約束して各家路に帰って行きました。最後に60歳はまだこれからだ元気で頑張ることを誓い合いました。



本郷岳友会の年間活動

押田 松見（高22回）



私たち本郷岳友会は昭和38年に山岳部OB会として設立して以来、同窓会としての親睦と山岳会としての登山、それに高校山岳部の指導という三つの立場で40年以上、活動を続けています。

平成10年には南アルプス・甲斐駒ヶ岳の麓に自分達で山小屋を建て、ここを中心に登山や集いの場としてみんなで楽しんでいきます。年間の活動を簡単に紹介しますと2月新年

顔合せ、4月総会（卒業生追出しコンパ）、8月暑気払い、その他に年4回ほど会の運営や登山計画についての集会在都内で開かれます。

登山活動としては年6回以上の日帰り山行を目指してはいますが、昨年は3月奥武蔵・蔵山（1,044m≡写真）、6月道志・今倉山（1,470m）―二六夜山（1,297m）、11月日光・鳴虫山（1,103m）、12月筑波山（875m）の4回だけでした。

8月は夏山合宿で北アルプス・白馬岳（2,932m）―雪倉岳（2,611m）―朝日岳（2,418m）、三山を縦走しました。入山日は昼頃から強風、強雨の天候に変わり、山は大荒れとなりましたが、何とか目的地まで辿り着くことができました。翌日は天気も晴れ、最高の夏山になったので計画通りの山行ができました。

山中では、冗談の言い合いで気を紛らわし衰えた体力を補って登っています。

11月は定例行事で「集う会」を山荘で催し、一堂に会して酒宴と焚火で山の夜を楽しみます。今回は小屋の近くにある日向山（1,659m）にも登り紅葉の秋山を堪能できたので、より充実した集まりになりました。

12月は「冬じまい」で手造りの山小屋に集まり凍結防止を施し小屋を閉じ春まで休眠です。

年末に忘年会を開きその年の反省と翌年の予定を話し一年の終わりとなります。

会の活動は会員の仕事や生活状況によって左右されるので安定した運営を持続していくのも容易ではありません。若い人の参加も少なくなり、活動の中心が中高年になっているのが現状で会の高齢化が進むばかりです。

しかし、どんなに状況が変わろうとも山や仲間への想いがある限りOB会の活動はこれからも続けていきたいと思っています。

文化祭報告

市倉 洋一（高12回）

ッします。〜と。「2006本郷祭(文化祭)」のプログラムの表紙に大きく書かれています。昨年文化祭のテーマです。「紳士であれ」、「真面目であれ」、「スマートであれ」との校訓の頭文字「し」、「ま」、「す」を組み合わせたそうです。



秋分の日
9月23日と翌
24日の2日
間にわたって
伝統の本郷祭
は開催されま
した。両日と
も好天に恵ま
れ、朝から家
族連れや女子
生徒たちが来
場し、終日に
ぎわいを見せ

ていました。それにしても子供たちがおおぜい押しかけていたのには驚きました。

菓鴨駅側の校門を入ると中庭まで「本郷市」の模擬店がズラリと並んでいます。日ごろは校庭で体を鍛える運動部の猛者たちも、この日ばかりはエプロン姿でかいがいしく動きまわり、売りこみに懸命です。

プログラムを手に校内を一巡してみますと、体育館などではバレーボールや卓球の招待試合に声援がとんでいます。教室では各クラスやクラブによる展示や催しが、創意工夫をこらしてにぎやかに展開されていました。昔ながらのお化け屋敷もありました。一方、このところテレビで人気のピタゴラスイッチやアートバルーン、奇術を取り入れたクラスもあり、子供たちをとりこにしています。自主制作の映画も上映されていました。父母の会も積極的に参加していました。無料休憩所を設けて来場者をもてなす一方、制服リサイクルや脳トレニングと体力測定、教室を開くなど、ママさんパワーが全開です。

さて、わが同窓会ブースも63館2階選択C教室をお借りしてオープンしました。コーヒーとお菓子を用意して静かに来場者を待ちます。また、パソコンをセッとし同級生の住所が調べられるようになっています。

教室には例年どおり、本校の歴史がたどれる古い写真などをはじめ、同窓会誌「銀友」の表紙写真一覽、生徒会新聞のバックナンバーや井島佳二郎さん（高7回生）の写真などを展示しました。さらにうれしいことに、23日だけでしたが、陶芸家の榎本洋二さん（高26回生）とアーティストの村上隆さん（高32回生）が作品を出展してくださいました。

同窓会ブースの開設とセットで計画している同窓会サロン（懇親会）は24日午後、菓鴨の三菱養和会「レストランパール」で行ないました。会場は、各回生が連絡を取り合っただけでご参集していただき、イスが足りなくなると、これまででない盛りあがりを見せていました。

平成十八年度定期総会報告

下関 秀之（高50回）

平成十八年六月十七日午後三時より

於 本郷学園二階会議室

第3号議案

平成17年度決算報告 寺田副会長（高24回）
銀友35号24ページを参照の上詳細に説明、
賛成多数で承認される

第4号議案

平成17年度会計監査報告 篠監事（高6回）
篠幹事と高田監事（高15回）による監査の
結果、会計が適切であると報告される。

第5号議案

平成18年度事業計画 秋元副会長
事業計画案は平成17年度とほぼ同じ。高松
旅行に関しては、総会の時点で具体化してい
ない点、例年は隔年実施となっていたことか
ら、19年度に実施する方向で検討を行う。
賛成多数で承認される。

平成18年度同窓会定期総会が6月17日午後
3時から学園会議室で司会関塚副会長（高20
回）より開会宣言され、同窓会員出席者45名
で開催された。

開催にあたり、山内会長（高3回）より、徐々
に企業の新人採用が増え始め、景気回復の兆
しが見えつつあることについて話題が触れら
れ、開会挨拶となった。

議長選出に移り、会則により山内会長を選
出。書記には下関理事（高50回）が選ばれた。

総会に入る前に、平成17年度の物故者に対
し全員起立の上で黙祷が捧げられた。

これより議事に入る。

第1号議案

人事案件 山内会長

宮本副会長（中15回）を相談役に選出

市倉理事（高12回）を副会長に選出

賛成多数で承認される。

第2号議案

平成17年度事業報告 秋元副会長（高7回）

文化祭サロンに多数の来場者があったこ

と、懇親会旅行を実施したことなどが報告さ
れた。

第6号議案

平成18年度予算案 寺田副会長

銀友35号25ページを参照の上詳細に説明、賛成多数で承認される。

第7号議案

平成18年度各担務計画案

銀友担当の石井副会長（高6回）より、内容のさらなる充実化を図るため、原稿を投稿して欲しいとの要望があった。

活性化担当の関塚副会長より『本郷のあゆみ』に関する説明、同期会の推進事業に関する説明があった。

ホームページ担当の田中副会長（高24回）より、ホームページの現状紹介のほか、デザイン変更やブログを検討していきたいとの説明があった。

第8号議案

その他の議案として、山内会長より本郷学園創立80周年の企画、新成人の集いに関する企画に関して説明があった。

以上で平成18年度の総会の全議事が終了し閉会した。

その後、会場を三菱養和会内レストランパルテールに移し、和やかな懇談会となった。



平成 18 年度事業報告

自・平成 18 年 4 月 1 日 至・平成 19 年 3 月 31 日

日付	事業内容
四月 七日	〈平成十八年〉 高校・中学入学式(会長・副会長出席)
四月 十五日	理事会・懇親会(本校会議室・養和会)
四月 二十日	運営委員会(同窓会資料室)
五月 下旬	銀友発送
六月 十七日	定期総会・懇親会(本校会議室・養和会)
七月 二十二日	運営委員会(同窓会資料室)
九月 九日	運営委員会・体育祭見学
九月 二十三日	文化祭出展
二十四日	文化祭サロン開設(養和会)
十月 二十一日	運営委員会(同窓会資料室)
十一月 十八日	運営委員会(同窓会資料室)
十一月 二十七日	学園幹部との交流会
〈平成十九年〉	
一月 二十日	理事会(理科室)
二月 十七日	運営委員会(同窓会資料室)
三月 十五日	高校卒業式(会長・副会長出席)
三月 十七日	運営委員会(同窓会資料室)
三月 二十日	中学卒業式(会長・副会長出席)

平成 18 年度決算書

自・平成 18 年 4 月 1 日 至・平成 19 年 3 月 31 日

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
前年度繰越金	6,671,866	卒業生記念品費	63,800
会費(1,148名)	2,716,000	文化祭サロン費	167,360
入会金(平成18年度277名)	831,000	文化祭出展費	76,772
受取利息	2,493	印刷費(一般)	18,900
雑収入	12,000	印刷費(銀友14,200部)	1,311,744
		発送費(銀友13,106通)	960,728
		発送手数料(銀友)	113,016
		通信費(HPプロバイダー)	44,100
		通信費(一般)	41,901
		事務消耗品費	32,879
		会費郵便振替手数料	110,380
		振込手数料	1,679
		対学校交流会費	45,000
		運営委員会交通費補助	75,000
		予備費	15,960
		次年度繰越金	7,154,140
合計	10,233,359	合計	10,233,359

現預金明細

現金	134,508		
郵便貯金	3,050,849	本郷学園同窓会 会長	山内英夫
振替預金	203,890	本郷学園同窓会 会計	寺田正美
三菱東京UFJ普通預金	3,764,893	本郷学園同窓会 監事	篠喜三郎
合計	7,154,140	本郷学園同窓会 監事	高田隆義

平成 19 年度事業計画案

自・平成 19 年 4 月 1 日 至・平成 20 年 3 月 31 日

		〈平成十九年〉
		四月 七日 高校・中学入学式(会長・副会長出席)
		四月二十一日 理事会・懇親会(本校会議室・養和会)
		五月十九日 運営委員会(同窓会資料室)
		五月下旬 銀友発送
		六月十六日 定期総会・懇親会(本校会議室・養和会)
		七月二十一日 運営委員会(同窓会資料室)
		九月 八日 文化祭準備委員会(同窓会資料室)
		九月十五日 運営委員会 体育祭見学(同窓会資料室)
		九月二十二日 文化祭出展
		九月二十三日 文化祭サロン開設(養和会)
		十月二十日 運営委員会(同窓会資料室)
		十月十三日 八十周年記念懇親旅行会(「四国・讃岐」)
		十一月十四日
		十一月十七日 運営委員会(同窓会資料室)
		十一月下旬 学園幹部との交流会
		十二月十五日 運営委員会(同窓会資料室)
		〈平成二十年〉
		一月十九日 理事会・新年会(本校会議室・養和会)
		二月十六日 運営委員会(同窓会資料室)
		三月十五日 高校卒業式(会長・副会長出席)
		三月十七日 運営委員会(同窓会資料室)
		三月十九日 中学卒業式(会長・副会長出席)

平成 19 年度予算案

自・平成 19 年 4 月 1 日 至・平成 20 年 3 月 31 日

収入の部		支出の部	
科目	予算	科目	予算
前年度繰越金	7,154,140	卒業生記念品費	100,000
会費(1,500名)	3,000,000	文化祭サロン費	200,000
入会金(平成19年度289名)	867,000	文化祭出展費	100,000
受取利息	2,500	印刷費(一般)	30,000
		印刷費(銀友)	1,400,000
		発送費(銀友)	1,000,000
		発送手数料(銀友)	120,000
		銀友編集取材費	20,000
		通信費(HPプロバイダー)	44,100
		通信費(一般)	60,000
		名簿管理保守費	180,000
		事務消耗品費	5,000
		会費郵便振替手数料	150,000
		振込手数料	2,000
		対学校交流費	60,000
		運営委員会交通費補助	150,000
		新成人の集い	40,000
		予備費	100,000
		次年度繰越金	7,262,540
合計	11,023,640	合計	11,023,640

学園だより

■平成十九年度入試結果

国公立大学は、東京大学（六）、東京工業大学（四）、東北大学（二）、北海道大学（四）、千葉大学（二）、筑波大学（三）、首都大学東京（五）、電気通信大学（三）など延べ四九校であり、人数的には昨年度より若干増加した。

私立大学は延べ七一八校で、人数的には昨年度より大幅に増加した。

早慶上智理科大については、早稲田大学（五二）、慶応義塾大学（二四）、上智大学（一四）、東京理科大学（六七）、延べ一五七校で、昨年度とほぼ同じである。いわゆるMARCH+Gについては、明治大学（六一）青山学院大学（一〇）、立教大学（二八）、中央大学（三二）、法政大学（二六）、学習院大学（一〇）、延べ一六六校で、昨年度から若

干減少した。

■指定校推薦制大学合格者一四名

立教大学（法）、中央大学（理工）、明治大学（理工）、早稲田大学（商・基礎理工・先進理工・創造理工）、上智大学（理工）、東京理科大学（理）その他

■国公立大学合格者四九名

東京大学、東京工業大学、東北大学、北海道大学、千葉大学、筑波大学、首都大学東京、埼玉大学、電気通信大学、東京外国語大学、東京農工大学その他

■私立大学合格者七一八名

成蹊大学、明治学院大学、日本大学、東洋大学、駒澤大学、専修大学、獨協大学、芝浦工業大学、東京電機大学、早稲田大学、慶應義塾大学、上智大学、東京理科大学、明治大学、青山学院大学、立教大学、中央大学、法政大学、学習院大学その他

なお、合格者が重複しているが、その他多数となっている。（平成19年4月11日現在判明分）

■平成十八年度（二〇〇六年度）

クラブ活動状況

高校

野球部

全国高等学校野球選手権大会 東東京大会 3回戦進出

バトミントン部

関東大会 東京都予選会 団体 3回戦進出、東京都高等学校総合体育大会 個人シングルス3回戦（長谷川） 個人ダブルス 3回戦（岡田・牧） 団体Aブルック予選2回戦進出

スキー部

東京都高等学校春季スキー本大会 男子大回転7位 漆間・25位 沖山、男子回転 19位

サッカー部

全国大会予選4回戦進出

剣道部

全国高等学校剣道大会個人予選ベスト8
永井 亮、東京都秋季剣道大会団体
ベスト8

ラグビー部

東京都高等学校ラグビーフットボール春季大会 ベスト4、第54回関東高等学校ラグビーフットボール大会 Eブロック優勝、第86回全国高等学校ラグビーフットボール大会東京都予選 準優勝

中学

バトミントン部

豊島区春季大会 個人ダブルス3位(山本・吉岡)、豊島区春季大会・夏季大会 団体3位(Bブロック大会出場)

卓球部

豊島区春季大会 団体2位 個人ダブルス1位(廣田・田之上) 3位(掛巢・諸木/沢田・亀山)、豊島区夏季大会 団体1位 個人シングルス3位(廣田・

田之上) 個人ダブルス1位(沢田・近藤)

3位(大益・平山)、東京都私学大会
シングルスベスト32(松浦) ダブルス
ベスト16(廣田・田之上/掛巢・諸木)

サッカー部

豊島区春季・夏季大会 優勝

テニス部

第4ブロック大会 個人シングルス
ベスト32(佐賀)、都大会団体戦2回戦進
出

剣道部

第4春季・夏季大会 優勝、東京都春季
大会 3位、東京都中学校剣道大会 団
体3位、関東中学校剣道大会 3位

ラグビー部

春季大会ベスト8

陸上競技部

全日本中学校陸上競技東京都大会 共
通3000m 8位 宮島誠也 1年走
り幅跳 8位 加茂謙吾 共通4種競技
8位 沖 太郎、東京都中学校総合体育

大会陸上競技大会 共通走幅跳 5位
兵頭義章 共通4種競技 4位 沖 太
郎、東京都私立中学對抗陸上競技選手権
大会 共通3000m 2位 宮島誠也
共通2000 3位 兵頭義章 共通走幅
跳 1位 兵頭義章 共通走高跳 2位

沖 太郎 学校対抗 総合3位



本郷学園同窓会会費納入者一覽

平成十九年三月三十一日現在

中18

愛 利三・青戸 將・安達 正治・雨宮 昭二
新井 義雄・新井 保文・五十嵐 宏・石田 順嗣
磯川 清和・磯野 泰夫・今里 隆・岩崎 昭
榎本 輯次・大沢 善和・大澤 清・大原 功
岡田 光正・金子佐多美・蒲生 勇三・菊地 熙夫
北堀 幸雄・北村廣三郎・栗山 春雄・後藤 良一
佐々木一昭・佐藤 明夫・志田 芳久・清水 正美
菅野 武司・菅野 英夫・杉原 繁夫・鈴木 卓三
瀬川 昌男・高桑 益行・高橋 三郎・高橋 操六
高橋 直林・藤堂 正彰・友安 昭治・豊崎 益夫
鳥飼 義二・長谷 鍾三・仲摩 邦夫・中山 正
中山 守次・二木 清夫・西野 重義・野本 昭
長谷川忠也・服部星之助・服部 定善・馬場 隆
檜垣 順次・藤田 弘治・細井 孝・前田 和男
松田 裕・松永 昭二・松廣 翠・松本 純治
水原 奎一・宮田 昭平・武藤 泰夫・森 正徳
山田 卓治・渡辺 信夫・渡部 忠一
浅原 義久・阿出川義男・新井 豊彦・石井 博夫
板倉 一典・大久保武司・太田 健三・大野 勝弘
岡田 貢一・貝塚 明雄・柏原 英一・菊田 勇
高 三郎・重永 政夫・鈴木 司郎・曾川三千昭
高橋 實・滝田 智久・竹本 三男・田中 賢司
玉川 昭・永井 四郎・西村 努・野木 惣市
長谷川広司・保谷 六郎・増田 速水・室久敏三郎
築 尚・山崎 達司・山崎 康久・山本 巖
横田 文男

中1 本岡雄三郎

中2 栗山 巍・榊原 裕

中3 青柳 志郎・安藤 正二・高市 章・高松 鶴吉

中4 野本三千雄

伊藤 英治・各務 正

中5 石井 千里・高山 三郎・広瀬 武次・益池 正二

中6 大和 慎人・小出 一夫・佐原雄次郎・本橋 弥彦

中7 笹岡 輝久

中8 石坂 武徳・佐藤 忠夫・篠崎 一弥

中9 長嶺金次郎・湯原 豁

中10 有賀 活郎・鶴木 諄・大塚秀太郎・佐々木岸太郎

中11 長島 照雄・中村 隆之・吉原 晴夫

中12 伊藤 龍昭・大多和利治・大塚 信男・久住 進一

中13 小泉 進・後藤 恒久・鈴木 勝美・永井 吉男

中14 中川 統一・毛利 正利

中15 青野 廉・市川 雄一・太田 芳蔵・海洋 力

中16 木村 善男・黒川 興文・高橋 耕一・塚田 芳雄

中17 長岡ゆうしん・中野 武正・水谷 郁夫・八杉 繁

中18 山岸 勝美・吉田 大象

中19 河北 展生・楠本善一郎・小路 作衛・後藤 嘉徳

中20 小松 昭・坂口 甫・高木 敏夫・山田 英彌

中21 吉田 正吾・和氣 秀夫

中22 阿部敏一郎・石川 正達・石原 清助・太田 恭二

中23 黒鳥 四朗・小森 為郎・鈴木 和男・高橋 正

中24 森 正道・寺門 務・永田 三郎・中村 允

中25 村上 忠之・山口 一弘

中26 小川 一郎・奥田 富雄・尾立 維久・加藤 健造

中27 佐藤 三良・柴崎甲子夫・鈴木 一郎・多賀 一郎

中28 高山 勝喜・西村 博・藤井 繁太・藤井 稔

中29 堀江 伸美・森本 三郎

中30 阿部 敏秋・新井 文一・太田 年三・荻原 久雄

中31 奥平 保正・勝 敬二・河原 燦・栗原 重雄

中32 蛭合 邦夫・鈴木 利一・高沢 俊・高間 圭一

中33 竹中 節男・中村 美登・中山 甲一・根本 卓光

中34 野村 秀二・畑 定・松本 八郎・宮本 幸雄

中35 山口 富三・吉田幸之輔・吉田 正・吉松 茂弥

中36 安芸 八郎・大沢 欽一・大津 泰三・加瀬 量次

中37 菊地 宏・木村 宮造・木村 康夫・小永井 暹

中38 白井 明・田中 凡夫・近澤 勝利・鶴見 俊一

中39 野尻 利祐・羽根孝太郎・樋代 幸雄・藤田 洋一

中40 森 恭久

中41 秋田 禮一・阿出川昭治・按田仁三郎・泉 末広

中42 大野 肇・大村 雅通・小川 清・小倉 高規

中43 乙部 邦壽・尾前 広・垣 喜一郎・川内 慎

中44 斉田 貢一・佐藤 元徳・清水 英夫・下村多氣夫

中45 鈴木 隆・高野 正美・立山 文男・田中 章治

中46 田中 稔・千葉 孝男・塚本 直人・土屋 二郎

中47 角折 幸輝・寺口有喜公・中山 茂・原 昭一郎

中48 保坂 忠夫・町田 滋・松谷 正・水田 裕昭

中49 森 宏・吉岡 寛・蕨 清平

中50 金澤 一朗・菊入喜三郎・久保 政義・倉田桂二郎

高5	片桐幸一郎・谷川洋明・宮坂貢司	高12	市倉洋一・大槻勝英・小田川敏孝・亀井忠雄	高22	瀬賀春雄・田村修三・若杉清和																															
高4	八嶋政臣・渡辺武男	高11	太田善夫・小池弘祐	高21	森田議雄																															
高3	羽生銚佑・浜野清隆・廣瀬六郎・宮入貞雄	高10	上岡光男・小島友宏・田中秀明・津原巖	高19	秋葉和秀・石原崇光・遠田守利・齊藤忠																															
高2	清水真太郎・豊嶋敬司・中村嘉宏・西島成一	高9	綿貫正壽	高18	石原健三・板倉日出男・小倉義雄・小松良栄																															
高1	相川厚・佐治栄一・外内悦雄	高8	金子隆一・木塚順夫・小室能広・新澤米次	高17	池田明・小野寺良雄・佐藤仁・園部一郎																															
中22	井筒千秋・伊藤文二・坂本庄司・高田政雄	高7	深澤宏之・藤巻健三・南谷修・三村孝一	高15	新安雄・斉藤雅彦																															
中21	阿知波健・板倉厚・市橋光雄・大下晃	高6	飯泉喜也・池内春俊・石井延彦・市川錦次郎	高14	菅原健一・中村雅彦																															
中20	大矢和夫・小沼一雄・柄澤喜市・倉島喜一	高5	稻垣泰輔・岩崎雄蔵・内田孝二・奥村茂	高13	加毛隆・清川洋吉・越路往輝・斎藤毅																															
中19	小林國雄・白井真一郎・新澤良孝・田中一好	高4	小椋一・小野耕一・風間幹雄・柏村喜徳郎	高12	相川清・明石安邦・阿出川信夫・方波見茂																															
中18	二宮重恒・藤田隆・古門義雄・中林商蔵	高3	香森哲也・久保田義喜・藏田尚・栗原廣太郎	高11	山本達雄・渡辺好之																															
中17	星野昌弘・持田耕一・横澤邦彦	高2	後藤順夫・小林金剛・小林秀行・佐治義雄	高10	中田和男・塙和道・向井史朗・山田悦男																															
中16	永井道夫・中原豪彦・野々村長三・福沢昇	高1	佐瀬友貞・篠喜三郎・鈴木惣一郎・関計一郎	高9	久保田晴夫・熊木宏治・鈴木教司・高橋徹																															
中15	高1	高8	関貞三・仙波忠志・高木桂三・高橋民次郎	高8	高好俊一・瀧瀬景正・竹村義教・中川幸平																															
中14	高2	高1	田中登・津久田愛之助・中里盛次・中村義一	高7	山本達雄・渡辺好之																															
中13	高3	高2	中山寿夫・根立光夫・平川明雄・前田明男	高6	相川清・明石安邦・阿出川信夫・方波見茂																															
中12	高4	高3	松ヶ谷利康・松本易夫・松本幸司・宮内順三	高5	相川清・明石安邦・阿出川信夫・方波見茂																															
中11	高5	高4	渡辺勝・渡辺昭義	高4	相川清・明石安邦・阿出川信夫・方波見茂																															
中10	高6	高5	秋元幹夫・井島佳二郎・鳥崎幸人・豊嶋宏	高3	相川清・明石安邦・阿出川信夫・方波見茂																															
中9	高7	高6	平田満男・益川雄治・山内周	高2	相川清・明石安邦・阿出川信夫・方波見茂																															
中8	高8	高7	榎本正夫・海老原博・大野俊広・角能良宣	高1	相川清・明石安邦・阿出川信夫・方波見茂																															
中7	高9	高8	新藤眞市・勅使河原宏記・長澤秀幸・中野修	中22	相川清・明石安邦・阿出川信夫・方波見茂																															
中6	高10	高9	山本賢一・吉田光男・渡邊衛・渡邊茂明	中21	相川清・明石安邦・阿出川信夫・方波見茂																															
中5	高11	高10	江原森太郎・川崎孝・小林常甫・島村泰夫	中20	相川清・明石安邦・阿出川信夫・方波見茂																															
中4	高12	高11	田中好明・田辺博昭・西江正晴・比企正憲	中19	相川清・明石安邦・阿出川信夫・方波見茂																															
中3	高13	高12	吉田穆	中18	相川清・明石安邦・阿出川信夫・方波見茂																															
中2	高14	高13	青木弘三・井上栄三郎・岡本信也・小川絃	中17	相川清・明石安邦・阿出川信夫・方波見茂																															
中1	高15	高14	上岡光男・小島友宏・田中秀明・津原巖	中16	相川清・明石安邦・阿出川信夫・方波見茂																															
中0	高16	高15	中河秀行・茂出木義雄・八木橋実・山崎昇	中15	相川清・明石安邦・阿出川信夫・方波見茂																															
中-1	高17	高16	渡部長幸	中14	相川清・明石安邦・阿出川信夫・方波見茂																															
中-2	高18	高17	市倉洋一・大槻勝英・小田川敏孝・亀井忠雄	中13	相川清・明石安邦・阿出川信夫・方波見茂																															
中-3	高19	高18	高12	高11	高10	高9	高8	高7	高6	高5	高4	高3	高2	高1	中22	中21	中20	中19	中18	中17	中16	中15	中14	中13	中12	中11	中10	中9	中8	中7	中6	中5	中4	中3	中2	中1

高23	池野	直樹・太田	治・鹿島	茂夫・吉嶋	一雄
高24	高橋	博・高橋	一夫・仲原	辰男	晃
高24	石原	渉・掛川	敏行・進藤	久幸・関田	晃
高25	田中	良一・寺田	正美・中村	敬司・野田	悠二
高25	日高	詳介・松島	和己・峯岸	孝次・村上	信夫
高25	井口	茂雄・加藤	省三・清田	健蔵・坂井	成一
高25	佐野	養・田島	秀行・千野	邦雄・中田	宗喜
高26	長谷川	幸雄・松崎	敏弘・山口	登・吉田	徳義
高26	吉波	行男			
高26	伊藤	正彦・稲田	俊和・岩崎	一・金子	知光
高26	窪田	欣志・相模	明男・笹沼	博之・柴	安弘
高27	杉浦	晶・立入	健司・田中	成明・庭野	毅
高27	花島	良晴・平野	隆之・松平	善明・溝口	清人
高27	安部	昌治・石川	義和・岩崎	充晃・岡村	桂一
高27	河野	哲史・鈴木	利一・高橋	伸治・田光	一幸
高28	畠山	恒明			
高28	井口	隆・加藤	好男・上谷内純一	小林	博貴
高29	菅原	義則・須崎	幸彦・田中	実・堀江	至久
高29	松井	伸彦・山本	和弘・米山	敏昭	
高29	安住	高弘・飯泉	彰裕・石塚	実・伊東	史郎
高30	大久保	実・大橋	弘明・菅野	弘一・田中	和男
高30	丹野	修辞・中村	茂樹・横山	鉄夫・渡辺	嘉伸
高30	川崎	雅弘・宮本	茂治		
高31	石坪	英貴・佐藤	修一・高山	裕・富永	浩伸
高32	厩溪	文有・中村	貢司・山畑	邦裕・吉田	法夫
高32	清野	政夫・小池	治・斎藤	政嗣・高橋	利幸
高33	富永	和弘・永堀	義秀・宮嶋	信男・横田	浩志
高33	天沼	嘉章・石黒	一守・磯田	浩之・岩田	実
高39	小口	邦夫・斎藤	卓・鈴木	英雄・高橋	秀明
高40	滝本	学・西	洋一・西川	和利・萩原	良文
高40	福島	浩・吉田	浩久・吉田	秀樹・若月	隆
高40	川人	康成・高田	典浩・塚原	利晶・平澤	淳
高41	相原	伸光・福田	亮一・望月	哲・山田	薫
高41	太田	良一・岡田	博・長田	祐司・紙谷	淳一
高41	川島	雅之・小掛慎太郎	小松	直人・高瀬	知博
高42	有澤	知彦・石本健太郎	大澤	清・菊池	敦史
高42	吉川	秀一・齋川	俊行・塩家	吹雪・高山	慎
高42	田村	裕一・根岸	由次・花田	憲彦・東尾	隆之
高43	三村	淳悟・目黒	将司・本井	利生	
高43	伊藤	正規・今井	仁・上原	弘行・内山	義治
高43	清水	秀樹・千代延	尚・中田	一郎・中村	歩希
高43	西平	敦郎・野口	拓榮・萩原	孝明・針谷	寿紀
高44	松本	祐一・山野邊康史	吉田	永弘	
高44	浅野	裕之・大久保裕司	加藤	立・金居	豊
高44	北村	彰浩・久保村	豊・小林	洋一・丹波	宏崇
高45	津田	達広・渡邊	卓也		
高45	青木	和久・赤田	正樹・近藤	正徳・斉田	拓也
高45	下村	大樹・高井	亮任・田代憲太郎	中野	隆之
高46	荒井	昌之・金子	隆・北澤	卓弥・柴崎	直樹
高46	鈴木	健一・砂泊光一郎	藤原	琢也・山田	洋一
高47	渡邊	信貴			
高47	河村	英俊・斉藤	伸之・須原	秀人・中村	紘大
高48	柳瀬	崇博			
高48	菅原	康夫・稲生雄一郎	金子	健・川島	昌弘
高48	佐藤	卓也・高井	智任・中村	織雄・橋本	直人
高49	増田	健次・山中	弘毅		
高49	天池	泰仁・荒井竜太郎	上野	光信・鎌田	敬介
高50	近藤	大介・坂上	聡志・中溝	健晴・林	誠吾
高50	堀	洋平・増田	望・安井	督・山田	元文
高50	浅岡	祐介・池	祐一・池葉	正樹・乾	嘉宏
高51	岡田	有道・鬼倉	一展・小林	悟・島村	有希
高51	清水	幸一・清水	貴寛・下関	秀之・瀧川	道生
高51	塚脇	英典・新村	光央・野村耕太郎		
高51	阿部	智則・新井	亮輔・乙丸	貴史・梶野	貴経
高51	佐藤	英明・白石	佑一・染谷	快典・滝澤	一晴

竹田	周司・立澤	広平・中澤	利幸・中田	孝宏	高55	芦田	智・有吉翔二郎・市河	實・内丸	剛郎	梅田	翔太・江刺	利彦・大黒	政彦・大澤	泰斗
行木	達朗・丹羽	大輔・橋爪	雄志・蜂谷	大輔	高55	大河内伸剛・加藤	誉幸・金子	優太・金子	駿太	小笠	貴嗣・加藤	尊・上久保一輝	川村	真生
濱野	和明・福田	哲也・古島	剛・堀越	亮	高55	川那辺翔・菊地	史朗・朽名	正道・國安	徹	木下	和俊・熊谷	圭祐・栗田	淳貴・小池	拓矢
皆川	裕司・若杉	文寛・若西	良介		高55	小山悠介・坂本	直國・佐藤	裕明・佐藤	遼太	小室	優幾・佐藤	樹・清水	大・高橋	栄之
赤松	篤・朝川	仁・新井慎一郎	伊田健一郎		高55	高木規宏・塚田	匡・鶴巻	元康・長岡	剛史	高橋	伊郎・高部	遼・武井	聡・竹内	良
猪越	正直・大塚	邦紀・加藤	隆之・坂本	泰宏	高55	永澤陽介・仲島	裕皓・新村	佳央・秦	武弘	多田	邦生・高部	駿平・田中	真一・田中	義輝
鈴木	常太・関澤	泰明・関本	英克・千田	昌宏	高55	林航一郎・深水	雅生・牧野	恭平・松本	好史	土屋	厚人・鶴岡	琢真・戸田	容平・中川	照博
高橋	智久・成瀬	隼人・長谷川智洋	長谷川圭吾		高56	宮澤良順・山崎	晃一・山下	勇仁		仲島	孔明・並木	幹夫・成井	大・西原	正浩
浜田	栄二・福岡	淳・藤澤	健夫・藤本	耕平	高56	麻生剛弘・阿部	聡之・新井	貴秀・岩村	淳弘	堀井	清貴・益田	正樹・松島	和人・松村	浩司
馬渡	千高・山田	大輔			高56	卯坂潤一郎・江利川	堯・大棚	隆夫・大森	拓	三橋	亮吾・三邊	晃太・松島	智之・村崎	健一
石田	将敏・今井	秀星・内原	嘉昭・江川	勝久	高56	小山田英樹・河合	修平・川田	大助・河野	謙司	森口	雄太・安	博賢・安井	智之・山田	大雅
奥山	雄太・鬼倉	宏天・寛	真一・香積	知明	高56	木内健義・小池	篤史・後藤	隆徳・小林	遼	揚	俊太郎・横澤	英剛・横山	広樹・吉川	直佑
北島	康介・栗山	孝幸・小島	将敬・後藤	泰治	高56	澤山慶博・島田	尚樹・白坂	健太・菅原	一輝					
齊藤	秀雄・佐藤	達哉・曾原健一郎	高辻	紘之	高56	高井俊宏・谷口	圭・土井	康弘・殿川	洋右					
高波	佑介・立澤	伸也・田中	義人・長南	基	高56	富塚賢太郎・豊吉	隆太・中田	義元・中山	周平					
鶴岡	廣哉・中井	秀昌・長島	克弥・中村	旭	高56	長谷川裕之・布施	健一・船渡川	哲・本田	文哉					
日谷	堯・深山	敬大・福森	洋輔・藤田	豊	高57	松本恵弥・吉田	遼平							
水越	泰平・山浦	太一・渡邊	昌一		高57	新井孝明・安藤	裕哉・池田	貴生・石村	賢					
相川	和基・植田	雄一・鶴木	学・浦野	哲也	高57	磯山明哲・内田	征平・江口	弘樹・加藤	哲史					
江間	裕樹・大森	秀昭・小田	敦史・上加世田	眺	高57	北森雅雄・小林	敏・佐伯	貴士・酒井	元規					
亀井	慎哉・川井	絢矢・岸	優太・北村	徳宏	高57	櫻庭尚人・佐藤	洋・佐藤	将大・澤村	拓也					
久保	隆之・栗野	耕平・小泉	孝人・小泉	信吾	高57	進野裕規・新見	陽介・砂川	大茂・園田	光					
石澤	慧・小谷	泰介・齋藤	覚・佐藤	寛之	高57	田崎貴史・谷口	遼・鶴岡	亮人・寺嶋	一祐					
清水	圭・白土	峰大・高田	誠・高橋	祐磨	高57	長尾岳人・萩	圭士良・畑	佑樹・坊野	亮平					
辰巳	裕紀・千葉植太郎	戸澤信太郎	土橋	篤仁	高58	増田一樹・溝辺	基・藻利	大地・谷島	敬幸					
堀江	文博・中村	泰紀・中村	和寛・西島	章夫	高58	吉田峻洋								
柳	翔一・堀越	周・正木	健彦・松内	則秀	高58	秋本悠樹・安達	祐太・阿部	一雅・淡路	正志					
	宗明・横山	佳之・吉澤順一	朗・和田	敏治	高58	石川広明・石川	秀一・伊田	和平・内倉	良裕					

学園より

教育振興資金へのご寄付のお願い

本郷学園同窓会の皆様には、日頃学園をご支援いただき心から感謝いたします。お蔭様で中学、高校ともに、外部の皆様方から教育内容の充実した学校として年々、より高い評価を戴いております。

今後とも、建学以来の教育理念に則って社会有為の人材を育てるべく、学園あげて取り組む所存でございますので、ご支援の程宜しくお願い申し上げます。

学校の教育内容充実、施設整備などの用途を目的に寄付金を在校生の保護者、卒業生の皆様ほか個人、法人問わず幅広く募集いたしておりますので、ご案内申し上げます。学校法人への寄付金は非課税扱いになっております。趣旨にご賛同いただきましたうえでご協力賜りますようお願い申し上げます。

(なお、本学園では従来から入学に際し保護者の皆様へのご寄付のお願いは特に致しておりません。)

○お申し込み方法

① 学園事務室に寄付の申込書をご請求ください。

学校法人 本郷学園

〒170-0003 豊島区駒込4-11-1

電話 ○三―三九一七―一四三六

ファックス ○三―三九一七―〇〇〇七 担当 小幡(事務長)

② 申込書に所定事項をご記入の上、事務室へご提出ください。

③ 指定の銀行振込口座にご入金ください。

④ 入金確認後、「払込金受領書」並びに「特定公益増進法人であることの証明書」(写)を郵送いたします。

○税法上の寄付金控除

私立学校への寄付金は特定公益増進法人に対する寄付金として確定申告により所得税、相続税の所得から控除されます。

寄付金控除額は控除対象団体等への年間支払い寄付金の総額(年間総所得の40%以内)から5千円を差し引いた額になります。